

第5学年 算数科学習指導案

日 時：令和元年6月24日（月）

場 所：

授業者：

1 単元名 小数のわり算

2 本時のねらい（10／14）

ひもを切り分けてアクセサリーを作る時のあまりのひもの長さについて、正しいあまりの大きさを根拠を明らかにして考える活動を通して、筆算に表れるあまりは、0.1をもとにして考えた時の数であり、筆算では、わられる数もとの小数点にそろえて小数点をうてばよいことを理解し、除数が小数の除法について正しく商とあまりを求めることができる。

3 本時の展開

過程	学習活動	○指導・援助 ・留意点
つかむ・見通す	<p>1 問題を読み、立式する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 6.3mのひもを1.5mずつ切ってアクセサリーを作ります。1.5mのひもが何本切り取れて、何mあまるでしょう。 </div> <p>・$6.3 \div 1.5$</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あまりのある小数のわり算は、どのように計算するのだろうか。 </div>	<p>・わかっていること、聞かれていることを明確にし、わりきれぬまで計算するのではなく、整数で商を求め、あまりも求めることに気付かせる。</p> <p>○テープ図を使い問題を提示することで、問題場面を理解しやすくすると共に、あまりに着目させ、課題化を図る。</p> <p>・できる限り児童の言葉を用いて課題化を図る。</p>
10分	<p>3 $6.3 \div 1.5$ の筆算をし、答えを確かめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $6.3 \div 1.5 = 4 \text{ あまり } 3$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $6.3 \div 1.5 = 4 \text{ あまり } 0.3$ </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $\begin{array}{r} 4 \\ 1.5 \overline{) 6.3} \\ \underline{6.0} \\ 3 \end{array}$ <p>答え 4本取れて、3mあまる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> $\begin{array}{r} 4 \\ 1.5 \overline{) 6.3} \\ \underline{6.0} \\ 0.3 \end{array}$ <p>答え 4本取れて、0.3mあまる。</p> </div> </div>	<p>○前時までの小数÷小数の筆算の通り計算する方法を提示し、考えさせることを通して、数学的に考える児童を育む。</p> <p>・何を根拠に考えると良いかを確認した後で、個人追及に入る。 （「言葉で説明をする」「図を使う」「たしかめ算をする」などを、板書に位置付ける。）</p> <p>・一人一枚ずつ、目盛りが入ったテープ図を用意しておく。</p>
考える・深める	<p>4 根拠を明らかにしてどちらが正しいのかを交流をする。（ペア→全体）</p> <p>・3mのあまりがあると1.5mのひもをあと2本とることができるから、3mあまるのは違う。</p> <p>・図を使って考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0e0e0;"> (理想の言語表現) ・6.3mのリボンを1.5mずつで区切っていくと、0.3mあまるので、あまりは0.3が正しい。 </div>	<p>○自分の考えを言語で表現をし、仲間の考え方を学び合うため、また机間巡視で丸をつけることで自分の意見に自信がもてるようにする。</p> <p>・「図を使って考えた」「たしかめ算を使った」など、自分の考え方を明確にして話をするのができていない児童に、ペア交流の際、声を掛ける。</p>
15分	<p>・たしかめ算をする。</p> <p>$1.5 \times 4 + 3 = 9$</p> <p>→わられる数が6.3だから0.3のほうが正しい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0e0e0;"> (理想の言語表現) ・1.5mずつ切っているのに、3mあまるのは、まだ取れてしまうので、0.3mのほうが正しい。 </div>	
まとめる	<p>5 たしかめ算を確認し、あまりの0.3について知る。</p> <p>・筆算のあまりの部分に表れている3は、0.1の3個分という意味だから、0.3を表している。</p>	<p>・筆算の仕方を説明する活動を通して、あまりの小数点の位置はわられる数もとの位置にそろえることが再確認できるようにする。</p>
10分	<p>6 類題を解く。</p> <p>・$7.8 \div 2.5$ の商を整数で求め、あまりをだす。</p>	<p>○方眼用紙に筆算を板書することで、小数点をそろえることを意識できるようにする。</p> <p>・あまりの大きさに着目させ、あまりとわる数の大きさの関係を捉えさせる。</p>

確 か に す る 10 分	<p>7 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・あまりのある小数のわり算を計算するときは、あまりの小数点を、わられる数のもとの小数点にそろえてうつ。</p> </div> <p>8 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商を整数で求め、あまりも出しましょう。 (1) $9.6 \div 1.5$ ※1問目を全体で確認する。 (2) $5.2 \div 0.7$ (3) $9.9 \div 0.75$ (4) $8.4 \div 0.18$ (チャレンジ問題) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に確認をしながら、まとめる。 <p>○練習問題の1問目を全体で確認することで、あまりの小数点をわられる数のもとの小数点にそろえてうつことを、確かめる。</p> <p>○方眼用紙に筆算を板書することで、小数点をそろえることを意識できるようにする。</p> <p>《評価規準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数でわる除法で、あまりの意味や大きさを被除数と関連させて考えている。 <p style="text-align: right;">【数学的な考え方】</p>
----------------------------------	---	--